

大会名称: 第20回日・韓・中ジュニア交流競技会 バスケットボール競技

開催場所: 朝鮮大学校体育館(韓国・光州広域市)

試合区分: No. 101 男子 第1戦

期 日: 2012(H24)年8月25日(土)

開始時間: 11:00

終了時間: 12:30

韓国 (通算0勝0敗1分)	△ 70	17 -1st- 13 14 -2nd- 18 14 -3rd- 16 25 -4th- 23 -OT1- -OT2- -OT3-	△ 70	日本 (通算0勝0敗1分)
-------------------------	----------------	---	----------------	-------------------------

第20回日・韓・中ジュニア交流競技会 バスケットボール競技は第1戦。総当たり戦の初戦、日本は韓国と対戦。アウェイゲーム特有の我慢を要する展開となったゲームは、序盤から激しい展開となる。最後の最後まで一進一退の攻防が続いた日本は、70-70、大会規定により引き分けに終わった。

日本のスタートは、#5鈴木、#8高橋、#9川上、#14神里、#15山本。

第1ピリオド、日本は#5鈴木が先制点を挙げると、ディフェンスもチーム全体で頑張りを見せ、#9川上のブロックショットから#5鈴木の3Pシュートで主導権を握る。ここで日本は#4河合、#6目黒、#7寺部、#10宮脇、#12仁平にオールメンバーチェンジする。その後も#7寺部、#12仁平のオフenseリバウンドからの得点、さらに#10宮脇のバスケットカウントからフリースローも確実に沈め、リードを保つ。一方の韓国も、#9の2本の3Pシュートで追いつがり、17-12と日本リードで終了。

第2ピリオド、韓国はフリースローからオールコートプレスを仕掛け、日本のターンオーバーを誘う。日本はファストシュートがなかなか決まらないものの、オフenseリバウンドを頑張り、セカンドチャンスから得点を挙げる。韓国はタイムアウトを取り立て直しを図ると、前半で16得点を挙げた#9の1on1やジャンプシュートにより逆転に成功する。日本も#10宮脇が2本目のバスケットカウント、ゴール下のシュートで追い上げ、#4河合のジャンプシュートで逆転する。終了間際には#9にフリースローを2本決められ、31-31の同点で折り返す。

ハーフタイムに林ヘッドコーチから、オフenseでインサイドを狙うことと、リバウンドを頑張ろうと指示を受け後半へ。

第3ピリオド、立ち上がり、日本は激しいディフェンスから#8高橋がスティールを誘い、相手のアンスポーツマンライクファウルを得る。続いて日本は、#13白戸がスティールから速攻、ドライブインと連続得点する。しかし韓国は、#9、#7が確実に3Pシュートを決め、一進一退の展開が続く。45-47、韓国リードで終了。

第4ピリオド、日本はディフェンスをトライアングルツーマイクに変え、韓国の#7と#9をとらえてリズムを狂わせることに成功する。するとオフenseでは、#13白戸が連続得点、#15山本もゴール下で踏ん張り、逆転に成功する。しかし韓国も、この試合で29得点をあげた#9が、日本のディフェンスをかくぐり得点を挙げると、日本も#13白戸が積極的にゴールヘアタックし、お互いに譲らない展開となる。58-61となった残り4分28秒、日本はタイムアウトをとり、韓国のプレスディフェンスに対してのオフenseについて確認する。日本は#6目黒の3Pシュート、#10宮脇のフリースロー、ポストアップからのゴール下シュートで韓国に迫るが、韓国も#7、#9にマークが集中した隙にゴールを沈め、なかなか追いつけない。残り1分を切り、日本は#5鈴木のシュートで、68-68の同点に追いつく。残り28秒に日本がタイムアウトをとり、ディフェンスの指示を徹底。韓国のスローイン時のターンオーバーを誘い、韓国タイムアウト。プレイが再開し、韓国はファウルで流れを切る。残り14秒で日本タイムアウトを要求し、オフenseの確認をすると、#4河合がファウルをもらい、フリースローを確実に2本決め、70-68と日本リード。残り12秒、韓国はタイムアウトを取ると、残り5秒にジャンプシュートを決められ、タイムアップ。70-70、大会規定により引き分けで終了した。